

平成21年度学校体育振興事業
「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」
研究報告書

ふりがな 学校名	からつしりつおうちゅうがっこう 唐津市立相知中学校
-------------	------------------------------

校長名：田原久巳
 所在地：佐賀県唐津市相知町相知2482番地
 電話番号：0955—62—2814

中学校武道必修化に向けた地域連携指導
に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、佐賀県の北西部に位置し、町の中央には松浦川、厳木川に沿って水田が広がり、秀峰作礼山、八幡岳、岸岳などの山々と田園に囲まれた自然と水源に富む、農業と商業の町にある。地域や保護者の学校教育に対する関心は高く、進学を希望する生徒がほとんどである。

生徒は、素直で明るく、学校教育目標である「人権を尊重し、連帯感を深める中で、豊かな心、健やかな体、確かな学力を身に付け、自己実現に精一杯努力する生徒を育てる」のもと、授業や部活動、学校行事等に意欲的に取り組んでいる。

社会体育の活動も盛んで、地域においては、部活動以外にも中学生が参加できる硬式野球や陸上クラブ、弓道などが行われており、運動部活動加入率72.8%が示すように、多くの生徒が運動に親しんでいる。

2 学校の概要 (平成21年6月1日現在)

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
学級数	2	3	2	1	8	
生徒数	男	26	42	36	1	105
	女	42	44	40	1	127

教員数20名 (保健体育科1名)

武道・ダンスの授業の状況

領域：F 武道 領域の内容：剣道

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
配当時間	10	10	10	10	40	
担当教員数 (外部指導者)	1 (1)	1 (1)	1	1 (1)	4 (3)	
生徒数	男	26	42	36	1	105
	女	42	44	40	1	127

領域：G ダンス 領域の内容：現代的なリズム
のダンス

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
配当時間	6	6	6	6	24	
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1	1	4	
生徒数	男	26	42	36	1	105
	女	42	44	40	1	127

II 研究の内容及び成果等

本校は保健体育科教諭が1名在籍をしており、剣道を専門としている。今回、地元の相知町から剣道の授業に協力を得る地域の剣道指導者を探していたが、最終的には隣町の厳木町より剣道教士八段の先生に協力の依頼をした。授業は1年生2クラス、2年生3クラスの計5クラスに2時間ずつ、合計10時間の協力を得た。

剣道を初めて行う生徒は、剣道について、「臭い」、「痛い」、「怖い」などといったマイナスのイメージをもっていることが多い。そこで、少しでも生徒の剣道に対するマイナスのイメージを払拭したいと考え、地域の剣道の指導者の先生に依頼し、剣道の授業実践前に「剣道は日本の運動文化」という演題で武道講演会を実施した。地域の剣道の指導者自身が剣道で学んだことや生徒達に剣道で学んでほしいことなどをわかりやすく話してもらった。講演会後に生徒達に感想を書かせたところ、予想以上に剣道をやってみたいという生徒が増えた。

地域の剣道の指導者の先生には T2 という形

で授業に入って、より専門的な立場から生徒達への指導や助言をお願いした。技術指導の中で、基本となる技やしかけ技など、技の習得の際には必ず模範を示してもらったようにした。きめ細かな指導や助言をしてもらったことで生徒達の意欲も高まり、剣道に対する理解も深まった。

また、剣道は「礼に始まり礼に終わる」と言われるように礼節を重んじる日本古来の伝統文化である。その礼節や相手を尊重する態度などについても丁寧に指導をしてもらったことで、剣道場に入出入りする時の礼やあいさつの礼等、授業態度にも変容が見られるようになった。

1 研究主題等

(1) 研究主題

生徒が楽しみながら意欲的に取り組む
剣道の授業の実践

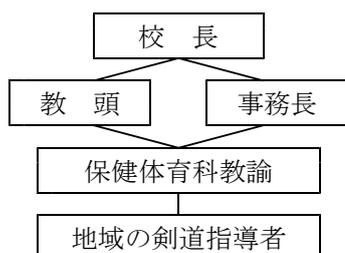
～地域の剣道指導者との連携を通して～

(2) 研究のねらい

地域の剣道指導者との授業前や授業後の打合せを密にし、基本動作や基本となる技のポイントを親切かつ丁寧に指導することで、自分にも剣道ができるかもしれない、剣道をやってみたいという興味・関心を高めたり、学習意欲を向上させたりする。

さらに、授業を通して基本動作や基本となる技の習得を図り、剣道の特性である相手との攻防を中心に学習過程を工夫し、剣道の楽しさや喜びを味わわせる。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成21年度	4月	年間指導計画の見直し
	8月	中学校武道必修化に伴う剣道指導者講習会受講（大阪）
	10月	単元計画の作成
	12月	学習内容の精選・整理
	2月	剣道具整備 武道（剣道）講演会実施 剣道授業実践（第1・2学年）
	3月	公開授業 先進校視察

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

次の①から④の課題解決に向けて研究する。

- ① 基本動作や基本となる技の学習に多くの時間を割いている。
- ② 剣道専門の指導者がいる場合、多くの技を教え過ぎてしまうために生徒の学習が深まっていない。
- ③ 剣道具の着装に時間がかかり、生徒の運動量の確保ができない。
- ④ 剣道は「痛い」というマイナスのイメージを持っている生徒が多く、授業に対しての取組が消極的である。

(2) 取組

- ① 初めて剣道を学習する生徒にとって基本動作の学習は重要であると思われる。しかし、基本動作ばかりに時間を取られ過ぎると剣道の特性である攻防の楽しさを味わわせることができなくなる。そこで、基本動作や基本となる技の学習後、早い段階から対人的技能や約束練習を取り入れることにした。
- ② 限られた時間の中で剣道の楽しさを味わわせるためには、多くの技を指導するのではなく、学習内容の精選を行う必要があると考えられる。そこで、中学校学習指導要領解説保健体育編に例示されてい

る基本動作や基本となる技に限定して学習させることにした。

ア 基本動作

- ・ 構え（中段の構え）
- ・ 体さばき（歩み足・送り足）
- ・ 基本打突の仕方と受け方

イ しかけ技

- ・ 二段の技（小手一面・面一胴）
- ・ 引き技（引き面・引き胴）

ウ 応じ技

- ・ 抜き技（面抜き胴・小手抜き面）

③ 剣道具の着装の時間短縮のために、剣道具を工夫した。

ア 面タオル

- ・ キャップ式にすることで、着脱時間の短縮、練習途中でのずれ防止になった。ただし、正式な面タオルのつけ方についても指導した。



キャップ式の面タオル

イ 面

- ・ 面紐通しが付いた面を使用することで、面装着の時間短縮につなげた。また、うまく面紐を結べない場合には、グループでお互いに協力し合い、結び合うようにした。



面紐通しが付いた面

ウ 胴

- ・ 胴紐は結び箇所が3箇所あり、初心者にとってはしっかりと結べずに

すぐに外れる傾向にある。そこで、胴紐を胴胸乳革に通し、首の後ろで蝶結びにする方法を示した。



胴紐の結び方

④ 初めて剣道をする生徒にとっては、「どの程度の強さで打てばよいのか」が分からない。特に男子の中には、強く打てば強く打つほど評価が高いと思っている生徒も多い。そこで、初めにバレーボールを使って効果的な打ち方を練習させ、イメージさせた。

(3) 成果・課題

① 1年生・2年生とも全10時間の単元計画で学習を展開した。基本動作や基本となる技の学習後、6時間目から対人的技能や五角稽古を取り入れた。基本動作や基本となる技の学習では反復練習が中心となり、学習意欲が低下する生徒が多かった。しかし、グループを編成し、対人的技能や約束練習を取り入れた学習では、グループ内で協力し合い、積極的に練習相手を見付けたり、グループ内で教え合ったりするなど、学習意欲の高まりが見られた。

② 中学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている基本動作や基本となる技に限定して学習させたことで、何をどの程度学習するのかといった学習内容が明確になり、生徒が学習の道すじや1時間ごとのねらいを理解できるようになった。しかし、10時間の単元計画では時間が足りず、例示されている基本動作や基本となる技の全てを習得することはできなかった。今年度の単元計画をもとに、より学習内容を明確にした単元計画を作成する必要がある。

③ 運動量を確保するためには剣道具の着装時間をいかに短縮させるかが問題になる。

今回は、面タオル、面、胴の3点を工夫した。剣道具を工夫することで着装の時間短縮、運動量の確保はできたが、「紐を結ぶ」ということに関しては、今後も継続して指導していく必要がある。

④ 「痛さ」への対応として、生徒がどの程度の強さで打てばよいのかが全く分かっていない。そこで、導入段階でバレーボールを使って効果的な打ち方を練習させ、イメージをもたせた。また、練習で打ち方が強かったり、肩に力が入った打ち方をしている生徒には継続的に指導することで、少しずつ改善された。今後は、個人差なども考え、打ち方の調整ができるような練習の仕方や指導方法を考える必要がある。

3 研究成果の普及

3月5日に唐津地区の中学校保健体育担当者を対象に公開授業および研究協議会を実施した。

公開授業の開催時期が年度末だったということもあり、参加者は少なかったが、充実した研究協議会になった。

来年度は10月から11月に公開授業の開催時期を早め、多くの中学校保健体育担当者に参加してもらい、研修を深めていきたい。

毎年、公開授業（授業研究会）を開催し、さらに研修を深めていきたい。

4 今後の展望

今年度の取組を通して、生徒の武道（剣道）に対する意識が少しずつ変わってきた。授業後のアンケートでは、「剣道は楽しい・やや楽しい」と答えた生徒は約81.3%、「剣道はあまり楽しくない・楽しくない」と答えた生徒は約18.6%であった。この結果より、地域の剣道の指導者との連携し、専門的な知識や技術を丁寧に指導したことで、生徒の興味・関心が高まったと考えられる。

保健体育科の教員1名では生徒一人一人に目が行き届かず、技能の習得にも差が出てくるが、地域の剣道指導者と役割分担をすることで細部まで目が行き届き、指導することができた。

今後は、地域の剣道指導者との連携を密にして授業前、授業後の打合せができるような時間割の作成、時間の確保が必要である。

また、T1、T2の役割分担などの授業計画の作成、学習内容の精選、指導と評価の一体化に向けた取組を進めていきたい。



授業の様子

5 生徒の感想

武道講演会後の感想

外部指導者の先生から「剣道は日本の運動文化」についての講話を聴いて、剣道はやはり心の状態に左右されるものであるということが分かりました。そして、日頃の稽古がとても大事なんだと感じました。多くの外国の方々も日本の武道を学んでいることを初めて知りました。

剣道のイメージはマイナスのイメージしかありませんでしたが、精神力を鍛えるために今回の授業で行う剣道は気持ちを引き締めて礼儀正しく行いたいと思います。

授業実施後の感想

剣道の授業を始める前までは「痛い」、「臭い」などのマイナスのイメージしかありませんでした。実際に竹刀を握ったり、防具をつけたりしてやってみると「楽しい」、「格好いい」と思えるようになりました。さらに、礼儀を重んじるどころや相手に対する思いやりの心をもつことなどを学び、今後の生活に役立てたいと思いました。なかなかうまくできないところもありましたが、剣道の授業はとても楽しかったです。